

## 公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型放課後等デイサービス さんかく		
○保護者評価実施期間	2024年12月20		～ 2024年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2024年12月20日		～ 2025年1月8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	音楽を活用した独自の支援プログラムを提供	子どもたちが楽しみながら成長できる環境を整えています	リズム運動、音楽に合わせたストレッチ、音楽を使った算数・国語の学習支援を検討
2	子ども一人ひとりに寄り添う個別支援の充実	個別支援計画を丁寧に作成し、子どもの発達段階や特性に応じたサポートを実施。少人数制・個別対応を重視し、安心して活動に取り組める環境を提供。 子ども自身の興味や得意なことを活かした活動を取り入れ、「できた!」という成功体験を積み	目標設定を明確にし、「音楽を活用して、どのスキルを伸ばすか」を具体的に検討する
3	定期的な保護者面談・家庭支援プログラムを実施し、子どもの成長を共有	保護者の普段感じているお子様への思いや要望をこまめに聞き取る。	更に充実した支援を常に探します。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	音楽以外の活動の選択肢の少なさ	音楽活動を軸にした支援が中心となるため、運動・工作・学習支援などの選択肢が限られることがある	音楽を基盤にしつつ、運動遊び・感覚統合・創作活動など、音楽と組み合わせた多様なプログラムの導入を検討。
2	支援スタッフの専門性のばらつき	音楽療法や発達支援の専門的な知識を持つスタッフがいる一方で、全スタッフが均一に専門的支援を提供できる体制が不足している部分がある	スタッフ研修の機会を増やし、発達支援・特別支援教育・音楽療法に関するスキル向上を図る
3	保護者との連携・情報共有の不足	支援内容や子どもの成長について、保護者へ十分に伝わっていない場面がある。	定期的なフィードバックの強化（連絡帳・面談・報告会）を実施し、保護者の意見をより反映できる体制を整える。

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 多機能型放課後等デイサービス さんかく

公表日 2025 年 2 月 1 日

利用児童数 2025 年 12 月 10 日

回収数 13

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	12			1		当施設では、こどもの多様な活動を支えるために十分なスペースを確保しています
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	9			4	配置人数の基準を知りません	当施設では、職員の配置数について、法律で定められた基準を厳守しています
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると	12			1		施設内は全てバリアフリー設計となっております
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思います	13					
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある	13					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容	12			1		プログラムの公表は準備中です。プログラムの詳細や実際の支援活動について、より多くの情報を報告していきます
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的	13					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援	13					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	13					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思	10			3		活動プログラムは固定化されないよう、さまざまな工夫をしています
	11 保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこ	3		1	9		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等に	12			1		契約時説明しております。
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされました	13					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニ	3	1	2	7		現在は実施しておりません。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状	12	1				
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	11		1	1		半年に1回のペースでモニタリングを行い面談しています。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	10			3		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられ			6	7		現在実施しておりません。今後 計画しておりますので開催になりましたら連絡いたします。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されて	9			4		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされてい	1 1	2				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡	5		2	6		ブログを通じて、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を発信しております。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	1 1			2		個人情報の取扱いに十分に留意しております。個人情報の記入されている書類は鍵付の書庫に保管しております。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニ	6			7		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要	5			8		概ね半年に1回のペースで避難訓練を実施しております。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される	7			6		個別支援計画に安全を確保するための計画を記載しております
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡	8			5		事故や怪我が発生した場合の連絡方法はスタッフ内で十分に共有されています。定期的に緊急時の対応手順や連絡方法を確認しております。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	1 3					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	1 2			1		
	29	事業所の支援に満足していますか。	1 3					

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	多機能型放課後等デイサービス さんかく				公表日	令和 7年 2月 1日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		法令を遵守し、利用者が快適かつ安全に過ごせる環境が整っています	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		法令で定められた基準を満たしております。職員の配置数は、利用定員や子どもの状態に応じて適切に設定されています	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		生活空間は、子どもにとってわかりやすく構造化された環境を提供しており、子どもたちが安心して過ごせるよう配慮されています。事業所の設備等も	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日の清掃や消毒が徹底されており、衛生管理が十分に行われています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		子どもが必要に応じて個別の部屋や場所を使用することが認められる環境が整っています。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		定期的なミーティングを通じて、職員一人ひとりが意見を出し合い、改善案を共有しています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的に保護者向けの評価表を配布し、保護者等の意向や意見を把握する機会を設けています。	今後、意見をより具体的かつ詳細に記入していただけるよう工夫を加える予定です。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的なミーティングを通じて、職員の意見を把握する機会を設けております	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	現在のところ、第三者による外部評価は実施していません。	今後の必要性に応じて、外部評価の実施を検討する場合があります
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。			職員同士の情報共有や意見交換の場を設け、相互の学びを深める取り組みを行っています。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムは作成中でございます	現在 公表の準備中です
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		当施設では計画期間ごとに個々の子どもに対して適切なアセスメントを実施していません。これにより、個別に最適な支援計画を作成していません	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		当施設では児童発達支援計画を作成する際に、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる全ての職員が参加し、共通理解の下で検討を行っています	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画が全職員に共有されており、計画に沿った支援が確実に行われています。職員間での情報共有を徹底し、計画に基づいた個別の支援を提供しています	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		施設ではこどもの適応行動の状況を確認するために、担当者がスプレッドシートに記入し、事業所内で適切に管理し、職員全員が確認しています	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		児童発達支援ガイドラインに基づき、こどもの支援に必要な項目を適切に設定し、具体的な支援内容を明確にしています。	

支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		活動プログラムの立案をチームで行っています。各職員がそれぞれの専門知識や経験を持ち寄り、子どもたちの多様なニーズに応じた活動プログラムを作成しています	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		活動プログラムが固定化しないよう、様々な工夫を行っています	今後さらに工夫を重ね、より多様なプログラムを提供していきます
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		個々の発達段階や興味に合わせた個別活動と、社会性や協調性を育むための集団活動を取り入れています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援開始前に職員間で必ず打合せを行い、その日に行われる支援の内容や役割分担を詳細に確認しています	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後、職員間で必ず打合せを行い、その日に行われた支援の振り返りを行っています	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		全ての支援内容をスプレッドシートに記録し、職員間で共有しています。支援の検証や改善点の特定が迅速に行える体制を整えています	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを行っております。モニタリングの結果を基に、計画の見直しが必要な場合には、適切な支援内容を再構築しています	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		サービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した管理者が参加しています	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		関係機関との定期的な情報共有や協議を通じて、子ども一人ひとりの状況に応じた適切な支援を提供しています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		現在のところ、併行利用や移行に向けた支援は行っておりません。しかし、今後の必要に応じて、インクルージョン推進の観点から支援を行う予定です	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		個人により必要な場合には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で支援内容等の情報共有と相互理解を図っています	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		循環支援にて学識経験者からアドバイスや指導を受けております。適切なフィードバックをサービスに反映させています。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○			認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会はありません。機会があれば積極的に
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		定期的な面談や連絡帳の活用などを通じて、保護者との情報共有を積極的に行っています。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			家族支援プログラムや家族が参加できる研修の機会や情報提供は実施しておりません。家族の皆様が参加できるプログラムや研修の機会を提供していきたいです	

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		契約時および問い合わせがあった際に丁寧に説明を行っています。ご不明点があればいつでもお答えしています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点も踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		モニタリングや連絡帳を通じて、定期的に子どもや家族の意向を確認する機会を設け、これに基づいて計画を立てています	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		児童発達支援計画を基に支援内容の説明を行い、保護者からの同意を得ています	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		家族からの子育ての悩み等に対する相談を、モニタリングや送迎時に適切に応じています	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。				保護者会の開催、きょうだい同士の交流機会の提供は行っていません。今後は機会があればこれらの支援を検討します
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		体制を整備し、子どもや保護者に周知しています。相談や申入れがあった際には、迅速かつ適切に対応することを心がけています	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		blogやLINEを通じて、活動概要、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の取扱いには十分留意しており、全ての個人情報は鍵付きの書庫に保管しています	
非常時等の対応	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		子どもや保護者の状態に応じて意思の疎通や情報伝達しています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			当事業所では地域住民を招待する行事等は実施していません。今後の事業計画において地域とのつながりを強化し、地域住民との交流を深めるための行事やイベントの
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知しています	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		非常災害の発生に備えて定期的に避難、救出その他必要な訓練を実施しています。これにより、非常時における迅速	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		契約時およびLINEを通じて、子どもの服薬状況、予防接種歴、てんかん発作などの健康状況を詳細に確認しています	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		飲食物の提供はありません。契約時に子どもの食物アレルギー状況を詳細に確認しています	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を策定し、安全管理に必要な研修や訓練を定期的にミーティングの際に実施しています	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画に基づく取り組み内容について、家族等へ周知し、子どもの安全確保に関して家族等との連携を図っています	
51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット事例を記録票に記入し、定期的なミーティングで職員と共有しています。これにより、再発防止に向けた具体的な方策を検討し、安全管理の強化に努めています		
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会を設置し、職員の研修機会を確保しています。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			当事業所では基本的に身体拘束を行うことはありません。しかし、万が一必要な場合には、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童	